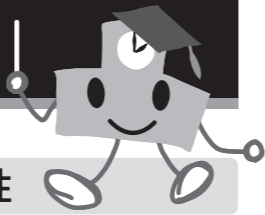


総合的な学習の時間に、 エコで国際交流をする取組。

恵まれた自然環境から、専門家と一緒に学ぶ生物多様性。
画面に映る他国の子供たちとの交流で、自分たちの地域の
素晴らしさやともに抱える環境問題を知る。
「身近な自然を愛し、大切にしていこう」という意識を一層高める取組。



はじまり 豊かな自然環境の中で学んできた生物多様性

本校の近くには、「荒井山」と「ユースの森」という異なった特徴をもつ自然環境がある。それぞれの地域の動植物を調べることで、その違いに気づきながら環境と生物とのつながりを学んでいく学習を目指す。学習の主なテーマは「生物多様性」で、6年生の学習と位置付けている。

当初は、ゲストティーチャーとして一緒に活動をしているNPO法人と、豊かな自然を活用し、生物多様性について学習することを中心に考えていた。それとは別に、「札幌の特色ある教育活動」の一環とし、スカイプ(インターネットテレビ電話)で海外の学校と交流するという活動を計画し、将来的に海外の学校と環境問題についても交流できればいいな、と考える程度だった。

ところが、5月にカナダのサーモン交流団で来日していたレンウッドミドルスクール(カナダ)の先生と校長との談話をきっかけに、「ぜひ、学校同士の交流を進めましょう」という話に。

内容 他国の友達を目の前にし 伝わること 反応があることの嬉しさを実感

子供たちがNPO法人とともに活動するのは、春、夏、秋、冬の4回。それぞれ6時間ずつと、その他にカナダとの交流準備の時間として10時間、カナダとの実際の交流に2時間を充てている。最後に、北海道大学環境研究室の先生の協力を得て、それまでの活動内容と生物多様性を結び付け、発表することを学習のまとめとしている。

もともと本校では「サーモンスクール」(民間団体が主催する各校に幅90cmのガラス水槽を設置し、サケの発眼卵100粒を稚魚まで飼育、豊平川に放流する活動)にも参加し、環境保護に関わる活動をしてきた。そこでこの活動に地域性を生かし学習した生物多様性の内容を加えていくことにした。カナダの環境や生物の違いも付加していくことでより厚みが増し、実感につながることができると考え、活動を発展させている。



カナダサーモン交流団に習字を教える子供たち



ユースの森でつかまえた昆虫を調べる

カナダとの交流は「VIDEO CONFERENCE BETWEEN CANADA」と題し、ウェブ会議として、スカイプを利用して行う。教育委員会からの「特色ある教育活動」予算で、スカイプ用のパソコンやウェブカメラ、ヘッドホンマイク、ケーブル類を購入した。

発表者側と聴く側とに時間を分け、クラスの全員が発表者として参加。まずは日本側が発表する。

日本からの発表

2人～9人のグループごとに、事前に用意しているシナリオ通りに1文ずつ説明文を読み上げ、通訳ボランティア(児童の保護者の方)に英訳をはさんでもらう。同時に、テレビ画面には関係する写真や画像を表示。相手からの反応を聴き、突発的に出る簡単な質問に答えながら、発表者側がメインとなって次々と進めていった。日本側は日本語で発表したが、中には英語で説明できるよう準備をしているグループもあった。

それぞれの発表テーマは、日本の四季に始まり、公害、環境問題など今まで学習してきた題材のほか、北海道に生息する動物や魚、日本の料理、童話、世界遺産や歴史的建造物、歴史上の人物、茶道、漢字、書道、伝統行事、人気のテレビ番組や芸能人、最近話題のニュース等、様々であった。環境に関する題材の発表は次のようなものだ。

環境保護グループ

大気汚染の原因には、大気汚染物質が排出される場合と、自動車による排気ガスの場合があるということ。1970年代には工場・事業場が原因で都市生活型の大気汚染が問題になったこと。自動車が年々増え続けており、健康影響への早急な対策が進められていること。また、環境保護の取組を進めるためにはみんなの理解と協力が必要であること等を説明。

公害グループ

日本では、過去に水俣病やイタイイタイ病などの公害で苦しんだり、亡くなったりした人たちがおり、昭和47年から毎年検査が行われていること、昭和48年から患者などへの救済が始まり、二度と公害を起こさないように対策をとっていることなどを説明。

カナダからの発表

子ども一人一人が話す度に、通訳による和訳を入れる。カナダからも、「様々な国からの人々が集まってできた国」といった国そのものの説明に始まり、身近な生活の中の物事を題材に、料理や学校行事、家庭にある家電や設備、公害などについて、画像を使った発表が行われ、子供たちは感嘆の声をあげて反応していた。時折、「これは何だと思えますか?」とクイズ形式で反応を待つ場面もあり、画面を食い入るように見つめては思い思いに回答していた。

それぞれの発表を終えた後の質問の時間には、「お酒は何歳から飲めますか?」「車は何歳から運転できますか?」「任天堂の3DS(最新のゲーム機)は発売されていますか?」といった子どもならではの質問があがった。特に「カナダで16歳から運転ができる」との回答には驚いたようすで、「ええーっ?!」と教室全体で大きく声があがった。



スカイプでカナダとの交流



カナダからの質問に答える子供たち